

場面緘黙当事者・経験者の症状・治療・職業等の現状

—271 名を対象としたウェブ調査より—

田中 佑里恵

(京都大学大学院人間・環境学研究科)

KEY WORDS: 場面緘黙 当事者・経験者 量的研究

【目的】

場面緘黙症 (Selective Mutism, 選択性緘黙) とは、話す能力があるにも関わらず、話すことが期待される特定の社会的状況で話すことが一貫してできない状態である。場面緘黙当事者・経験者を対象とした量的研究は国内において少なく、多数の当事者・経験者の症状克服や治療等に関する現状は十分に明らかになっていない。本研究では、当事者・経験者への調査を行い、場面緘黙の発現・克服・自覚・症状が一番強かった頃、診断・治療、併存症、職業の現状を明らかにする。

【方法】

参加者 場面緘黙当事者・場面緘黙経験者 271 名 (男性 49 名、女性 215 名、その他 7 名、13-55 歳、平均年齢=26.98 歳、SD=8.53 歳; 当事者=現在場面緘黙である者 107 名、平均年齢=24.11 歳、SD=8.09 歳; 経験者=過去に場面緘黙だった者 163 名、平均年齢=28.86 歳、SD=8.34 歳; 当事者・経験者別不明 1 名) が参加した。自助グループや SNS を通して依頼し同意と回答を得た。

質問項目 ウェブ調査を実施し、以下の項目に回答を求めた。

- (1) 発現・症状が一番強かった頃・克服・自覚 各年齢を尋ねた。自覚したきっかけは 11 項目からの単一回答とした。
- (2) 診断・治療 医療機関での場面緘黙の診断・治療の有無、診断を受けた年齢、治療開始・終了年齢を尋ねた。
- (3) 併存症 医療機関で受けた場面緘黙以外の精神疾患の診断の有無、診断名、診断を受けた年齢、治療状況を尋ねた。
- (4) 現在の職業 17 項目からの単一回答とした。

【結果】

(1) 発現・症状が一番強かった頃・克服・自覚の各年齢の結果を Table 1 に、自覚したきっかけを Table 2 に示す。

(2) 場面緘黙の診断を受けたことがある者は 64 名 (全体 271 名中 23.6%; 当事者 43 名、当事者 107 名中 40.2%; 経験者 20 名、経験者 163 名中 12.3%) (以下同様に表記)、ない者は 185 名 (68.3%; 当事者 58 名、54.2%; 経験者 127 名、77.9%) であった。場面緘黙の治療を現在受けている者は 21 名 (7.7%; 当事者 16 名、15.0%; 経験者 5 名、3.1%)、過去

Table 1 場面緘黙の発現・症状が一番強かった頃・克服・自覚年齢および診断を受けた・治療開始・治療終了年齢

項目	全体 (n=271)			当事者 (n=107)			経験者 (n=163)		
	平均	SD	n	平均	SD	n	平均	SD	n
発現年齢	5.64	2.80	1-17	6.25	3.43	68	5.29	2.32	119
症状が一番強かった頃の年齢	10.48	3.94	3-27	11.22	4.35	60	10.04	3.37	132
克服年齢	16.13	4.37	8-47	-	-	-	16.13	4.37	136
自覚年齢	19.90	8.27	4-49	18.42	8.48	99	19.35	6.22	151
診断を受けた年齢	14.73	5.93	4-27	15.50	5.53	38	12.86	7.06	17
治療開始年齢 (現在受けている者)	14.85	4.77	5-23	14.80	4.97	15	15.00	4.64	5
治療開始年齢 (過去に受けた者)	11.78	5.66	4-22	11.71	5.99	7	11.50	5.95	10
治療終了年齢 (過去に受けた者)	16.37	4.59	10-25	16.86	5.40	7	15.73	4.29	11

Table 2 場面緘黙を自覚したきっかけ

場面緘黙を自覚したきっかけ	全体 (n=271)			当事者 (n=107)			経験者 (n=163)		
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)			
医療機関で診断された	15 (5.5)	10 (9.3)	4 (2.5)						
親に言われた	16 (5.9)	7 (6.5)	9 (5.5)						
教師に言われた	9 (3.3)	4 (3.7)	5 (3.1)						
カウンセラーや心理士に言われた	8 (3.0)	4 (3.7)	4 (2.5)						
知り合いの人に言われた	6 (2.2)	3 (2.8)	3 (1.8)						
本で見た	16 (5.9)	3 (2.8)	13 (8.0)						
テレビで見た	35 (12.9)	13 (12.1)	22 (13.5)						
インターネットで見た	155 (57.2)	58 (54.2)	97 (59.5)						
学校の授業で聞いた	3 (1.1)	0 (0.0)	3 (1.8)						
その他	8 (3.0)	5 (4.7)	3 (1.8)						

に受けたことがある者は 20 名 (7.4%; 当事者 7 名、6.5%; 経験者 12 名、7.4%)、受けたことがない者は 208 名 (76.8%; 当事者 72 名、67.3%; 経験者 136 名、83.4%) であった。診断を受けた年齢、治療開始・終了年齢を Table 1 に示す。

(3) 併存症の診断を受けたことがあるか否かと治療状況の回答から集計した結果、現在併存症のある者は 95 名 (35.1%; 当事者 41 名、38.3%; 経験者 54 名、33.1%) であった。現在ある併存症の診断名を ICD-10 の精神および行動の障害の分類に基づき、集計した結果を Table 3 に示す。

Table 3 現在ある併存症の ICD-10 分類 (個人での重複あり)

併存症の ICD-10 分類	全体 (n=95) 人数	当事者 (n=41) 人数	経験者 (n=54) 人数	疾患名
F0	0	0	0	
F1	1	0	1	アルコール依存症
F2	3	1	2	統合失調症、急性一過性精神病性障害
F3	27	12	15	うつ病、双極性感情障害等
F4	68	26	42	社交不安障害、パニック障害、適応障害等
F5	5	1	4	摂食障害、睡眠障害
F6	2	2	0	境界性人格障害、情緒不安定性パーソナリティ障害
F7	1	1	0	知的障害
F8	20	15	5	自閉症スペクトラム障害、アスペルガー症候群等
F9	6	2	4	注意欠如・多動性障害、吃音症等
※F8かF9	3	1	2	発達障害 (詳細不明)

(4) 現在の職業を Table 4 に示す。その他の内訳を含めて、就業者と分かる者は 136 名 (50.2%; 当事者 39 名、36.4%; 経験者 96 名、58.9%)、学生と分かる者は 73 名 (26.9%; 当事者 42 名、39.3%; 経験者 31 名、19.0%) であった。

Table 4 現在の職業

現在の職業	全体 (n=271)			当事者 (n=107)			経験者 (n=163)		
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)			
会社員	64 (23.6)	18 (16.8)	46 (28.2)						
公務員	9 (3.3)	3 (2.8)	6 (3.7)						
管理職・会社経営	1 (0.4)	0 (0.0)	1 (0.6)						
自営業	4 (1.5)	1 (0.9)	3 (1.8)						
自由業	3 (1.1)	0 (0.0)	3 (1.8)						
専門職	16 (5.9)	6 (5.6)	10 (6.1)						
中学生	4 (1.5)	4 (3.7)	0 (0.0)						
高校生	22 (8.1)	16 (15.0)	6 (3.7)						
専門学校生	6 (2.2)	2 (1.9)	4 (2.5)						
短大・高専生	2 (0.7)	1 (0.9)	1 (0.6)						
大学生	33 (12.2)	17 (15.9)	16 (9.8)						
大学院生	2 (0.7)	0 (0.0)	2 (1.2)						
専業主婦・専業主夫	19 (7.0)	2 (1.9)	17 (10.4)						
無職	33 (12.2)	18 (16.8)	15 (9.2)						
その他	48 (17.7)	15 (14.0)	32 (19.6)						
答えられない	4 (1.5)	3 (2.8)	1 (0.6)						
無回答	1 (0.4)	1 (0.9)	0 (0.0)						

【考察】

診断・治療を受ける者は少なく、診断・治療開始年齢の平均は症状が一番強かった頃の年齢より遅く、早期発見・支援に至っていない。経験者は自力で克服した後、自覚した者が多いといえる。当事者・経験者とも、生活上の困難があることにより (田中・船曳, 2019)、二次障害として気分障害等が生じていると考える。無職の者は 1 割前後おり、公的支援が必要である。当事者のみならず経験者の後遺症、併存症、就労を含めた生活上の困難への診断・治療・支援が必要である。

(引用文献)

田中佑里恵・船曳康子 (2019). 場面緘黙当事者・経験者の生活上の困難と発話の程度 日本心理学会第 83 回大会発表論文集, 406. (TANAKA Yurie)